北海道医歌人会詠草

サルスベリ

札幌　浜島（はまじま）　泉（いずみ）

境内に蓮咲く寺へ人ら来て　わが妹に別れを申す
妹の夫婦相次ぎ瞑目す　僧侶宣ふ奇（くす）しきなりと
妹の生前写真にこやかに　棺（ひつぎ）の姿は母の面影
炎熱の埼玉の地に来てみるも　雲に恵まれ程穏やかに
道みちに花サルスベリ咲く村の　寺に妹の見送りをなす

レクイエム　黒木登志夫氏を悼む

釧路　児玉（こだま）　昌彦（まさひこ）

「死の臨床」極めし名著残したる畏友の訃報に言葉失う
人生のマラソンで常に先頭を走りし人が突然と消ゆ
老妻を見送りてまだ月足らぬ夜半の急変　ひとり逝きたり
年齢に不足はなしと言うものの　娘二人で見送る虚しさ
生きること夢まぼろしと割り切れば死が常態の宇宙のことわり

少しばかりの秋

北広島　古屋雅三知（ふるやまさみち）

噴火湾　秋の空気は澄み切って海の青さと空の青さと
野の草の緑は未だ残れどもイタドリの葉先　枯れ始めたり
児ら帰り人影失せし公園の夕闇の中鹿群れ集う
陽は落ちて野辺の虫の音聞く月夜薄（すすき）の枯れ穂も風に揺られて
エアコンの室外機カバー掛ける身に浸（そそ）ろ吹く風　夏過ぐを知る

秋のトリコロール

函館　水関（みずせき）　清（きよし）

悦びは　青・黄・緑のトリコロール　秋空の下稲刈りすすむ
夕立の過ぎし街路に　水鏡　傘を畳みてのぞき込む子等
くるくるとダンスで会話　ブレイキン　耳朶のピアスも桃色模様
芸術かスポーツなのか　バレエとは　台詞省いた身体表現
牧牛（まきうし）の背（せな）を撫づればもう冬毛　綿虫の舞ふ　冬の入り口

別れ

士別　竹内（たけうち）　幹夫（みきお）

おほぞらを　行き交ふ雲の影のなか　われらも小さく光を宿せり
くに産みし天津神（あまつがみ）だに分かるるを直人（ただひと）われらなど別れざる
目覚むれば声は遠くに霞みをり手を振る影は空に溶けゆく
外（と）つ国の言葉となりし君の言わが名を呼ばず消えて行きたり
とほき峯（ね）にただ降り積もる雪のやう死んだ心が今溢れだす

モンスター襲来

滝川　村田（むらた）　英俊（ひでとし）

店先にキレて名前を変える客　粕原さんや呉今（くれいま）さんに
歩道ゆく猛スピードの自転車が傍らを過ぐ風さえ怖い
帝王はジャパンを自国と見るらしいグリーンランド・カナダに次いで
処分した熊よりもっとモンスターは熊ファーストの猛抗議かも
「ガギガギガ」ジョセッシャーとう怪獣が今朝も暴れおり豪雪の町に